

ウラジロミドリシジミはヒロオビミドリシジミとの出会いを求めて初めて訪れた西播磨佐用町の上秋里地区のクリの花穂に来ている個体を初めてネットインしている。ミドリシジミ族のなかでは、裏面が銀色に輝くキリシマミドリシジミに次いで、他のミドリシジミの仲間とは裏面の色調が変わっている種で、翅表のエメラルドグリーンも特徴的だが、鱗粉の構造上、他のミドリシジミ類と同じく、見る角度によって微妙な色調の変化がみられる。それらを撮影記録として示してみたが、実際に肉眼で見る美しさを再現するのは容易ではない。



June 9, 2001
兵庫上月町



June 8, 2002
兵庫上月町



July 9, 2001 兵庫上月町



June 8, 2002 兵庫上月町

本種を普通種的感觉でみる事ができた 1970 年代の兵庫県佐用町や上月町では、クリの花が咲く時期に必ず複数頭が吸蜜していて、花をゆすれば無数のテングチョウに混じって本種の飛翔を楽しめたが、ナラガシワがシイタケの櫓木として次々と伐採され、もはや昔の発生は望めない。京都府では本種を準絶滅危惧種に選定し、長岡市の生息地では「乙訓の自然を守る会」がウラジロミドリシジミの保護活動を行っている。